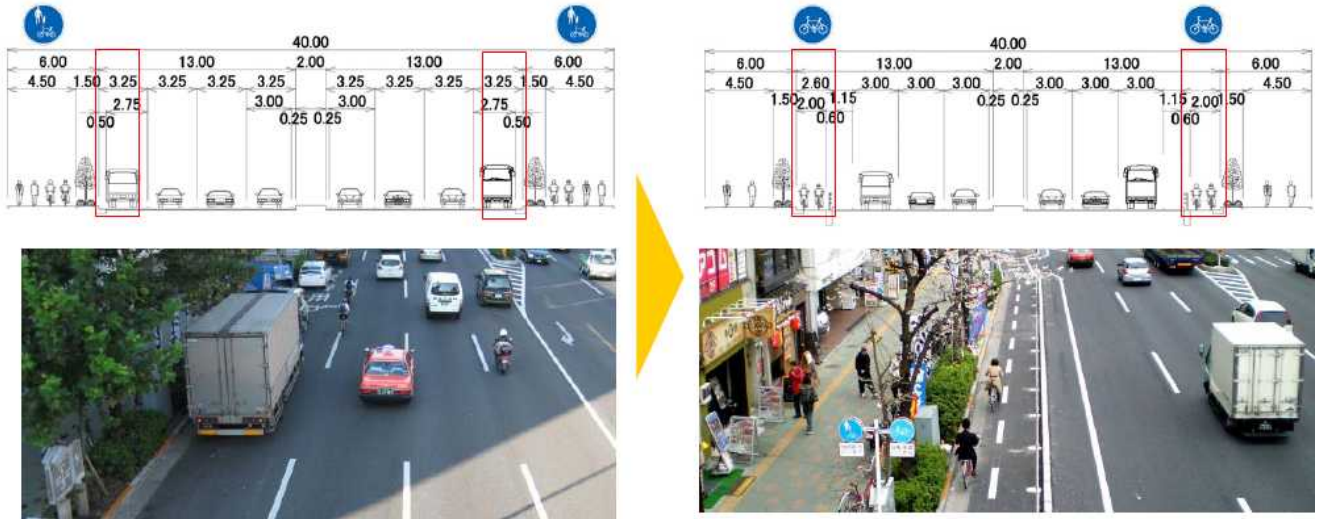


他都市の自転車利用環境改善に向けた取組事例（ハード）

1 既存道路で利用環境を向上させる

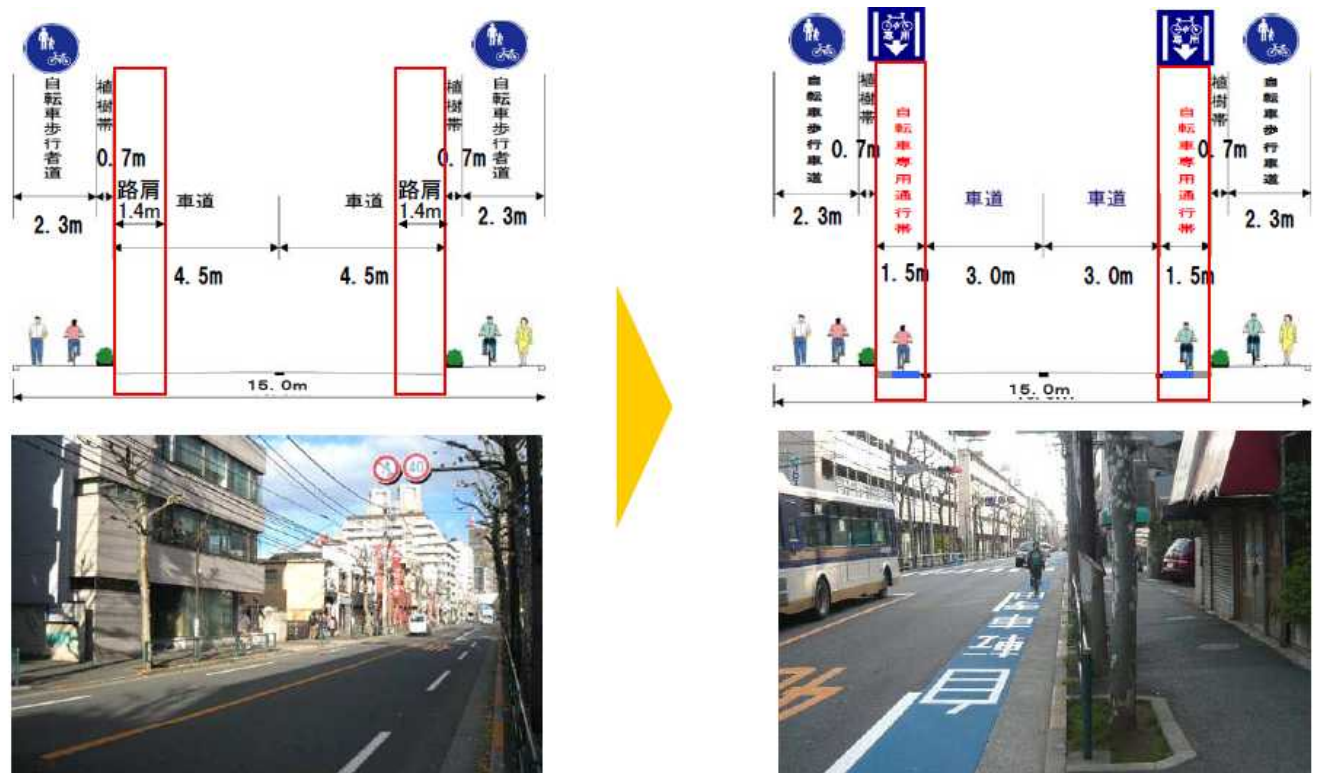
(1) 車線を減らして自転車道を整備「亀戸地区」(東京都江東区)

車道の左端に幅員 2 m の自転車道を設置し、歩行者・自転車・自動車の通行空間を分離しています。



(2) 路肩を活用し自転車レーンを設置「渋谷区幡ヶ谷地区」(東京都渋谷区)

道路標識と道路標示を設置することにより、自転車専用通行帯の交通規制を実施しています。



2 自転車、車、歩行者それぞれが安全でバランスのとれた道路整備

(1) イギリスの事例



自動車とのすみ分け



歩行者とのすみ分け



バスとのすみ分け(共存)

3 自転車がどこを走行すべきかのサインの整備

(1) 国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所「歩道上の歩行者と自転車の分離を目的とした社会実験」

高松中央通り(国道11号、30号)



路上に設置した例



路面に設置した例



上空に設置した例

4 レンタサイクル

(1) 自転車のまちを目指す安城市が実施しているレンタサイクル(愛知県安城市)

環境にやさしい「エコサイクルシティ」の実現を目指す安城市がすすめる様々な施策のうち、自転車利用の利便性を高めるため、レンタサイクルを実施しています。自転車を無料で貸し出す「サイクルポート」が、JR安城駅をはじめ、7箇所あり、合計42台の自転車が配備されています。放置自転車に頭を痛めた市が、再利用を思い立ったもので、2004年7月に2箇所スタートしましたが、好評で徐々に場所も台数も増えました。商店街近くの駐車場にマイカーを止め、自転車に乗り換えて買い物をしてもらう狙いもあり、昨年度の延べ利用者は、約4000人でした。自転車にはパンクの心配がないノーパンクタイヤを使用しています。



5 駐車場のサービスステーション化

(1) ドイツミュンスター市が実施するの自転車サービスステーション(ドイツ・ミュンスター市)

同市が運営する駐輪場は、ただ自転車をとめるだけではなく、自転車の調子が悪いときに、預けるときに依頼タグを挟んでおけば、帰りまでに修理調整してくれるサービスや、洗車サービスなどが格安で受けられます。また、レンタルサイクルもあります。



自転車ステーションの外観



配備された洗車機

(2) 三郷市が実施する自転車サービスステーション(埼玉県三郷市)

JR三郷駅北口ロータリーそばにある「自転車工房」では、自転車の無料点検・修理(有料の場合あり)や、リサイクル自転車の販売をしています。



「自転車工房」の外観



6 ヘルメットの配付・レンタル

(1) 台東区が実施する幼児用自転車ヘルメットの無償配布(東京都台東区)

自転車の転倒による子どもの負傷事故が増加していることを受け、平成18年度から幼児用自転車ヘルメットを2歳児から6歳児までの全員に無償配布し、安全確保と安全意識の高揚を図っています。ヘルメットはSG規格適合のペット樹脂製で、サイズは2種類、色は4色。対象者は希望のサイズと色を選び、区から対象者世帯へ届けられます。

また、家族ぐるみで安全に対する意識を高めるため、親子で読む防犯絵本も併せて配布しています。



無償配付されるヘルメット